

④名越切通・まんだら堂を探訪する（資料）

2019年5月8日(水) 鎌倉駅 9:30 集合（C班は逗子駅 9:45）

行程：鎌倉駅 9:30→大巧寺境内通過→小町大路→本覚寺(以下門前を通過)→常永寺→八雲神社→
上行事→安養寺→妙法寺(山門前拝観)→安国論寺(参拝 25分)→大町口より名越切通径へ→
まんだら堂(11:00 見学 30分)→第3・2通→第1切通→(引き返して)石廟→お猿島(大切岸)→
(引き返して)→法性寺奥の院→法性寺本殿→法性寺山門→法性寺バス停→逗子駅(解散)

AB班：中川駅 8:24 発～8:50 横浜駅 8:58～9:24 着 鎌倉駅 669円(329+340) JR 横須賀線久里浜行
中川駅 8:07 発～9:01 戸塚駅 9:10～9:24 着 逗子駅 669円(453+216)

C班：中川駅 8:33 発～8:59 横浜駅 9:11～9:40 着 鎌倉駅 669円(329+340) JR 横須賀線逗子行
中川駅 8:20 発～9:14 戸塚駅 9:23～9:40 着 逗子駅 669円(453+216)

◆妙法寺（別名 苔寺）

日蓮宗 楞嚴山妙法寺（りょうごんさんみょうほうじ）建長5年（1253）創建開山



建長5年 鎌倉での布教に乗り出した日蓮聖人が草案を結んだ地であり



「松葉ヶ谷の法難」の舞台として知られる。境内奥右手山頂には護良親王の墓が、左法華堂は文化年間（1804～1818）水戸徳川家により、本堂は文政年間（1818～1830）肥後細川家によりそれぞれ建立された。両堂の外観・内部には、龍、鳳凰などの彫刻がついた向背、四季折々の花々が描かれた格天井、中国の故事に因んだ板戸絵等など、贅を尽くした絢爛豪華な芸術的な細工が施され、両大名からの手厚い庇護が感じ

られる。後の戊辰戦争につながる薩摩藩邸焼打事件で命を賭した戦没者を祀る墓が佇む。

仁王門から釈迦堂跡に続く石段は苔に覆われており、このため妙法寺は別名「苔寺」とも呼ばれる。

◆安国論寺 日蓮宗 創建 建長 5 年 本尊は南無久遠実成本師釈迦牟尼仏

建長 5 年（1253 年）に日蓮が、安房国清澄寺から鎌倉に入り、松葉ヶ谷草庵（後に法華堂と号する）を構えた場所。その後、文永 8 年（1271 年）（龍ノ口の法難）までの約 18



安国寺山門

年間、日蓮の布教活動のための起居の場所となる。また、文応元年（1260 年）に『立正安国論』を著した岩窟がある寺。「立正安国論」を著して前執権・北条時頼に建白した、この為、度重なる法難を受けた。

東芝社長や経団連会長を務め、熱心な法華信者であった土光敏夫の菩提寺（墓所）でもある。

花のある境内



本堂



本堂内部



御小庵 日蓮上人が立正安国論を書いた御法窟の前に立つ御小庵



龍の彫刻がある太鼓



◆名越切通

名越切通とは、西の鎌倉側本町口から東の逗子市亀ヶ岡団地口の間で、昭和 41 年 4 月国指定史跡に指定された。



名越切通は、鎌倉時代に尾根を掘り割って造られたとされる道で、「吾妻鏡」に「名越坂」として記録に残っている。後に鎌倉七口の一つに上げられ、鎌倉と三浦方面を結ぶ陸路として長く重要な役割を果たしてきた。

切通周辺には鎌倉の防衛に関係したと考えられる平場や切岸、やぐらや火葬場跡なども多く分布しており、中世都市鎌倉周辺の歴史的景観をよく残している。

第1切通 写真右 第2切通→

名越切通の途上には大小 3ヶ所の狭い場所があり、鎌倉幕府が敵の侵入を防ぐために造ったものといわれてきた。しかし、第1切通の発掘調査により、江戸時代後半までに何度も掘り下げられ、改修されたことが判明している。また、第1切通（高さ10m・幅1m）の路面上8mの壁面に、崩れかかったやぐらが新たに発見されたことで、中世の切通路は現在よりもかなり高い位置を通過していたと想定されている。



◆まんだら堂やぐら群（鎌倉時代末期の13世紀末頃～ほぼ15世紀末頃まで造営）

「やぐら」とは、崖に横穴を掘り、内部に石塔を建てるなどして納骨・供養をする施設。



13世紀後半から16世紀頃まで使われ、鎌倉および鎌倉と関係ある地域や寺院などにのみ分布する特殊な遺構と言われている。都筑区の市が尾横穴古墳群もその一つである。

まんだら堂やぐら群は、周辺を含めると約150穴以上ものやぐらからなる鎌倉地域でも有数の大規模やぐら群である。やぐら群前面の平場は、主にやぐら掘削の際に発生した土砂で斜面を埋め立てて造成されている。平場の一部では柱穴なども見つかっており、付近に何らかの建物があったと考えられるが確認

されていない。また、遺体を火葬した跡も発見されている。

◆大切岸とお猿島・石廟

大切岸は、高さ3～10mの断崖が800m以上にわたって連なる遺構で、鎌倉幕府が三浦氏の攻撃に備えて造った鎌倉時代前期の遺構と言われているが正確なことはわかっていない。大切岸前の平場では、大規模な石切場の跡が確認された。石切の時期はおおよそ中世の頃と思われ、切出された石材は鎌倉の街中で建物の基礎などに用いられたと考えられる。

大切岸は、お猿島左方向（ハイランド寄り）と法性寺奥の院上方に断崖の偉容が見える。お猿島 元応2年（1320年）、日蓮の高弟・日朗死去にあたり、遺言により遺体は松葉



ヶ谷の安国論寺で荼毘に付され、かつて日蓮が逃れたと伝えられる岩窟がある御猿島に葬られた。翌年の元亨元年（1321年）、朗慶によりこの地に建立されたのが法性寺である。

お猿島への路の尾根上には、鎌倉時代後期から南北朝時代の間で作られたとされる石廟2基がある（鎌倉市指定文化財）。その用途は未確認であるが、葬送の祭壇であろうと考えられている

◆猿島山 法性寺（えんぱくさん ほっしょうじ）日蓮宗



法性寺 本堂入口

建長5年（1253年）、日蓮は安房国清澄寺より鎌倉入りし、松葉ヶ谷に草庵を構え布教活動を行っていたが、文応元年（1260年）、『立正安国論』を鎌倉幕府五代執権北条時頼へ献じたことをきっかけに、浄土教信者らにより夜間、草庵を襲撃・焼き討ちされた（松葉ヶ谷法難）。この時、暴徒到着に先立ち、日蓮の前に白猿が現れ、その導きにより山中の岩窟に隠れて難を逃れたとされる。日蓮はこれを山王権現の加護であるとし、弟子たちに報恩を託した。さらに、日蓮六老僧の中でも最も日蓮と行動をともにした名僧日朗の墓所でもある。

名越切通しの法性寺へと出る少し手前に、松葉ヶ谷法難において日蓮がこの道を通って逃げのびたと書かれた石がある。（写真 右）



御避難の法窟 祖師堂向かって左側の岩山に、祖師堂に面して開いた石窟（やぐら）があり、これが、松葉ヶ谷法難の際に日蓮が避難した場所であると伝えられている。（写真 左）

日朗菩薩御廟所
（写真 右）

祖師堂前、向かって右手にある四面堂で、堂内に石塔が納められている。



奥の院（写真 左）より先は墓地で、その先は尾根筋に上がる小道があり、名越切通から分かれ杉本寺、鎌倉逗子ハイランドを結ぶ峰路に接続する。

写真右 山王権現祠

日蓮避難の法窟がある岩山頂上にある法性寺鎮守。法窟手前、日朗廟所正面に鳥居と参道石段があり、頂上に小祠と、左右に題目石碑、五重塔が置かれている。



猿畠山 法性寺山門「猿畠山」の山号が書かれた扁額左右には、日蓮を導いたとされるがあしらわれている。

④名越切通・まんだら堂を探訪する 資料編 完